

平成元年度普及区域指導計画

都道府県名 沖縄県
 専門技術員室名称 沖縄県水産業改良普及所専技室
 普及区域 本島一円

事業区分	課 題	実施時期	地区又は 場 所	普及対象	協力 団 体	普 及 活 動 経 過	翌年度への展開事項
企画事業	1.地域活動計画の推進	4月～ 3月	知 念	漁業者及 び各生産 グループ	市町村、漁協	普及事業の役割は、大きく分けて次の3つの柱からなっている。(1)漁業技術に関すること、(2)漁業経営に関すること、(3)担い手育成に関する幅広いものであり、これらの課題を推進し解決するには、漁家の持つ緊急性、共通性、解決された場合の波及効果を考慮し濃密的に指導する地域（重点指導地区）や集団（重点指導集団）を選び漁業者が「自分で考え、決定し、実行」できるような計画を作成する目的で実施する。（詳細は、地域活動計画のたて方参照）	
	2.普及職員連絡協議会	4月～ 3月	普及所、宮古、八重山	普及職員		地域活動計画のたて方について、意見交換を行い、その展開方法等検討する。また、普及事業全般にわたっての進め方等協議する。	

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
	3.漁業士会議	6月 11月	普及所	漁業士	市町村、漁協	前年同様漁業士の活動を奨励するため、漁業士会議を開催する。89年度は全国漁業士交流集会後の11月をめぐり漁業士会を結成したい。	
	4.漁協青壮年部部長事務局長、事務局	3月	普及所	青壮年部 部長、事務局	市町村、漁協	移動相談終了後に部長、事務局会議を開催して、移動相談の総括と活動状況について、意見交換を行う。	
	5.モズク養殖生産者会議	11月	普及所	生産者	市町村、漁協	前年同様、品質の良いモズクを作るための意見交換の場として、年1回同会議を開催し、生産者間の連携を図りたい。	
	6.ヒトエグサ養殖生産者会議	8月	普及所	生産者	市町村、漁協	前年同様、安定生産が図られるように、年1回生産技術面を主体に意見交換を実施する。	
	7.普及資料及び公報の発行	6月、9月、2月	普及所	青壮年部	市町村、漁協	現場との情報交換の一環として、発行	(年3回)普及日より
試験事業	クビレオゴノリの増養殖試験(技術改良試験)	4月～ 3月	名護、具志川、糸満	青壮年部 生産グループ	市町村、漁協	1.コレクター(貝殻)垂下養殖サイクルの設定 1)果胞子保存及び垂下方法 (1)採苗後5月～9月まで果胞子タシク保存 (2)10月果胞子コレクターの沖出し (3)12月～1月上旬まで垂下養殖	90年度は、同試験の結果をふまえて、新技術実証事業へ移行させたい。

事業区分	課 題	実施時期	地区又は 場 所	普及対象	協 力 団 体	普 及 活 動 経 過	翌年度への展開事項
一般指導事業	1.モズク養殖漁場環境調査指導	4月～3月	未 定	生産者	市町村、漁協	(4)沖出し後2ヶ月程度で第1回収穫 (5)その後は、1ヶ月間隔で2～3回可能 2)藻体採苗方法 (1)1～2月囊果形成藻体採苗の実施(この時期は、囊果形成藻体が少ないので実施の際には十分な調査が必要) 2.はば1の方法により垂下養殖が可能になったので、89年度は方法1)、2)を組合わせて1経営体当りどの程度の規模の養殖が可能か生産・規模についての試験を実施したい。 モズク養殖漁場の環境調査については昭和63年度の農林水産技術会議で新規事業として89年より水試で実施することに決定した。普及所としても同事業については積極的に協力して行きたい。(生産者との協力体制の確立)	水産試験場にて実施(89年度以降)
	2.スジアオノリの養殖漁場環境調査指導	10月～3月	恩 納	生産者	市町村、漁協	前年度の水試での水槽実験で、淡水の影響による生育や体色のちがいが顕著であることが明らかになったため、	

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
研修事業	普及員一般研修	9月	普及所	普及員	専門技術員	(1)クビレオゴノリの養殖について (ネトロンシート養殖及びコレクター垂下養殖) (2)移動相談にみる漁協青年部活動 (移動相談の総括)	
	3.クビレヅタ養殖漁場環境調査指導	4月～3月	具志川	青壮年部	市町村、漁協	89年度は、(1)養殖場所、(2)養殖方法等実証事業と関連性を持たせて実施したい。 漁場環境調査については、前年度実施しある程度の成果がでたので、89年度は、(1)ホヤの季節的消長、(2)淡水処理と平行して、(3)カゴの防腐剤塗布による生育試験、(4)床張り養殖(ネトロンシートによる接地養殖)等検討したい。(前年度より予備試験実施中) 前年度同様、移動相談を実施して、漁協青年部の組織の強化と部会、班毎の課題設定について援助する。(89年度は、指導漁業士等との意見交換も実施。)	
	4.漁協青壮年部育成指導(担い手育成)	4月～3月	県下12地区の青壮年部	青壮年部	市町村、漁協		

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者等	普及活動経過	翌年度への展開事項
研修事業	漁業者 漁業技術一般研修	10月～	本島地区	生産者	専門技術員	(1)モズク養殖及び種保存に関すること	
		3月	宮古地区	"	"	(2)ヒトエグサ養殖及び管理に関すること	
		9月～	本島地区	青壮年部	"	(3)クビレヅタ養殖と保存処理に関すること	
		3月	八重山地区				
		"	具志川				
		4月～	名護、具志川、糸満	生産者	"	(4)オゴノリの養殖に関すること	
研修事業	漁業者	3月	恩納	生産者	"	(5)スジアオノリの養殖に関すること	
		10月～	与那原	婦人部	"	(6)ヒジキの施肥に関すること	

平成元年度 普及事業に関する移動相談、研修及び会議実施計画

(専技室)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
青年部巡回移動相談			国頭 石川	港川 具志川	伊平屋 伊江	勝連 沖繩市	知念 久米島	恩納 糸満					※生改との意見交換 会については検討
青年部長事務局長会議											↔		
漁業士会 (漁業士会結成準備会)			漁業士会		↔			漁業士会 結成大会					
養殖漁場環境調査	↔											↔	モズク、スジアオノリ クビレヅタ、ヒトエグサ
地域活動計画の実施	↔											↔	
青年部課題設定に伴 なう担当地区検討会	↔												
モズク養殖生産者会議							↔						
ヒトエグサ養殖生産者会議							↔						
普及員一般研修									↔	↔			
漁業者一般研修										↔			増養殖技術及び漁業 日誌に關すること
技術改良試験	↔ (クビレヅタ)	↔			↔ (ヒトエグサ)		↔ (モズク)			↔ (ヒジキ)	↔ (オゴノリ)		オゴノリ垂下式養殖 試験
普及だよりの発行													(3回予定)

平成元年度普及区域指導計画

都道府県名 沖縄県
改良普及員室名称 沖縄県水産業改良普及所普及員室
普及区域 沖縄本島地区

事業区分	課 題	実施時期	地区又は 会場	普及対象	協力団体	者等	普及活動経過	翌年度への展開事項
企画事業	漁村青少年協議会	6月、 10月、 3月	普及地区	漁村青少年	漁市青年 学識経験者	協村 部	。漁業後継者対策事業の検討、策定の ための協議会開催、漁協青年部との 交流会を実施する。	
	計画営漁点検指導推進事業	平1年 4月～ 2年3月					昭和60年度に作成した地域営漁計画 の点検指導を行う。	
調査事業	ポスター「沖縄のさかな」	4月 4月～	全地区	学校、ホテル、鮮魚店	漁水漁	協試 協	前年度に引きつづき後継者の育成、 魚食普及のための資料として配付 年3回発行。	
	水産普及だより 漁業士育成事業	3月 9月～ 3月	全地区 沖縄一円	漁業者 青壮年漁 業者	漁市水 漁	協村 試	平成元年度は指導漁業士2名、青年 漁業士5名を認定予定 沿岸の水質測定（水温、DO、PH 比重等）	
研修事業	漁業公害調査	4月～ 3月	沖縄本島地 区9地点	漁業者	水漁	試	専門技術員による行政一般並びに専門 技術等についての研修を実施する。	
	普及職員一般研修	4月～3月 (1回)	糸満市	普及員	専	技	平成元年度全国水産業改良普及職員行 政研修参加	(研修式)
	全国水産業改良普及職員 行政研修	4月～3月 (1回)	東京	普及職員	水産	庁		

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	者等	普及活動経過	翌年度への展開事項
研修事業	交 流 学 習 会	9 月	恩 納 村	漁 業 者 漁 協、市 町村 関係団体	漁 市 水	協 村 試	「資源管理型漁業の実践について」 神奈川県横浜浜市漁協専務 天田 茂	
	技 術 交 流 会	6 月	久 高 (港川) (池間)	漁 業 者 青 年 部	漁 市 水	協 村 試	釣漁業に関する技術交流 伊平屋漁協青年部 2 名 金 武 漁 協 2 名	
	特 別 研 修	5 月	鹿兒島県	漁 業 者	漁 市 水	協 村 試	。カツオの加工について 場所 鹿兒島市 他 参加者 伊良部漁協青年部 2 名	
試験事業	新技術実証事業	4 月～ 3 月		漁 協 漁 業 者	漁 協、市町村 漁 市 水	協 村 試	。アイゴ類の養成試験 アイゴ類の稚魚及び幼魚を海面小 割網生簀に収容、成長、歩留り、増 肉係数、その他について資料をつく るとともに年度内出荷を目的として 経営収支まで検討する。 。スジアオノリの養殖試験 技術改良試験の成果をうけ、現地適 応化の試験を実施 。水産物流通の現状と将来について 糸満水産加工団地理事長 金城興太郎氏	
指導事業	青 年 水 産 教 室	6 月	恩 納 村	漁 業 者 青 壯 年 部	漁 市 水	協 村 試		

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
指導事業	青年水産教室	1月	那覇市	青壮年部	漁市協	。青年部実践活動について 長崎県漁育連会長 古場裕士氏 義務教育課程にある児童生徒を対象 に水産に関する初歩的な知識、技術に ついて夏休みを利用して集団指導を行 なう。	
	少年水産教室	7月 (5日間)	糸満市 (普及所)	中 学 (2～3年 生)	漁協、市町村 水試、水高	県内グループの活動意欲を高めるた め、研究発表、技術交換等により地域 の生産技術の向上、経営の改善につい ての討議の場とする。	
	漁村青壮年婦人活動実績 発表大会	1月	那覇市	漁業者	漁業婦人	漁協青年部や青壮年部と活動状況等 についての意見交換を行ない、地域に あったグループ活動を検討する。	
	漁協青年部移動相談	4月～ 3月	担当地区	青年部 青壮年部	漁市協	ハマフェフキ種苗を漁港内海面小割 網生簀に収容し、放流サイズまで飼育 する。その後、標識を装着後放流する 今年度は歩留りの向上について検討す る。	
	魚類中間育成指導	4月～ 3月	国 頭	漁業者 協	水試 栽培センター 市 町 村	。改良試験、実証試験の結果をもとに 現場への普及をはかる。 。新しい知見を収集し、鮮度保持の改 善をはかる。	
	魚類鮮度保持指導	4月～ 3月	本島地区	漁業者	漁 協		

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	者等	普及活動経過	翌年度への展開事項
指導事業	沿岸漁業改善資金調査指導	4月～3月	普及地区	沿岸漁業従事者等	漁市	協村	沿岸漁業改善資金の需用調査、申請者調査指導、貸付後の事業指導及び事業実施後の調査指導を行なうとともに改善資金の趣旨及び内容の啓蒙指導を実施し、円滑な運営を図る。	
	魚類養殖指導	4月～3月	本島地区	養殖グループ漁業者	漁協、市町村水試、栽培漁業センター	漁協、市町村水試、栽培漁業センター	ハマフエフキ、コガシマアジ、マダイ、シモフリアイゴ等の海産魚類養殖指導を実施する。	
	オニテナガエビ養殖指導	4月～3月	"	内水面養殖業者	水試、市町村	水試、市町村	主として、ウナギ養殖施設を利用したオニテナガエビ養殖指導を実施する。	
	シヤコ貝放流指導	4月～3月	"	漁業者	"	"	。放流方法による歩留り、成長のちがいを調査し、放流方法の確立を図る。	
	水産物の加工指導 (トビウオ、シラヒゲウニ等)	4月～3月	伊江島糸満等	漁業者、漁協、婦人部	村、水試、生改普及員	村、水試、生改普及員	。グループの育成を図る。 伊江島、糸満においてトビウオの加工指導を継続して行う。 シラヒゲウニ等の加工指導は要請に基づき実施する。	
	漁場自主管理指導	4月～3月	恩納久米島等	漁業者、漁協	漁政課、水試	漁政課、水試	地域営漁計画のなかで漁場管理に取組む漁協を中心に指導を行う。	

平成元年度漁業後継者対策事業実施計画

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備	考
漁村青少年協議会			第1回				第2回					第3回	普及所会議室にて	
交 流 学 習 会							①本島 宮古 八重山						①資源管理利漁業の実践 神奈川県横浜市漁協 専務 天田 茂 3地区	
特 別、研 修		鹿児島 2名											カツオの加工について 派遣先：鹿児島 伊豆郡町漁協から2名	
少年水産教室				24～28日(本島、宮古)									中学2～3年対象 普及所、宮古	
青年水産教室		①本島 宮古 八重山	②本島							③本島			①水産物の流通について 大都会館 ②水産物流通の現状と将来 糸満水産加工団地理事長 金城興太郎 ③青年部実践活動について 長崎県漁青連会長 古場裕士	
技 術 交 流 会			①久高 (稚川) (池間)										①釣漁業に関する技術交流 伊平屋2名、金武2名	
新技術実証事業													①魚類の蓄養 (国頭漁協若壮年部) ②スズメダイの養殖 (恩納漁協海藻研究班)	
青年漁業士等育成事業							講習会	認定委員会		認定式			講習会3日間 指導漁業士 2名 青年漁業士 5名	
漁村青年婦人活動 実績発表大会										沖縄 大会		全国 大会		

平成元年度普及区域指導計画

都 道 府 県 名 沖 縄 県
普及普及員室名称 宮古支庁農林水産課
普及区域 宮古地区

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
企画事業	宮古地区漁村青少年協議会	6月 9月 12月	平良市 伊良部町 池間	漁村青年 少年	漁協、市町村 学識経験者	漁協青年部、研究グループの活動を強化し学習会、交流会等を活発に行い後継者の資質向上を図る。	漁業後継者対策事業
	普及職員業務連絡会議	5、10 2月	本島	普及職員	漁協、市町村	普及活動の計画、検討、活動状況の情報交換。	
調査事業	青年漁業士等育成指導事業	4、3月	普及地区	漁業者	漁協、市町村	青年漁業士及び指導漁業士の推薦指導	
	漁業公害調査 1. ノコギリガザミの放流 効果調査	4、3月 "	与那覇湾 下地町 入江	漁業者 "	漁協、市町村 漁協、下地町 市栽培センター	海浜状況観測指導及び水質調査 ① ノコギリガザミの成長及び生息位置を把握する。 ② 採捕実績を確認するため、放流ガザミの標識放流を検討する。 ③ 中間育成場での、他魚種の混入を調査し、育成場の改善資料を得る。 ④ 中間育成段階での、飼料及び育成尾数の検討	
	2. ウニ礁の効果調査	"	島尻地先 大神西側 海域		漁協、市栽培センター、 水試	昭和63年度に引き続き、大規模ウニ礁の効果調査及び、海藻調査を行い、シラヒゲウニ放流のための資料を得る。	

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	3.水産物の県外出荷調査	4、3月	伊良部町	漁 協	伊良部町漁協 町水産課	また、天然ウニの移植放流を行い、成長測定を実施する。 宮古一東京間の直行便が7月から就航するため、フライト漁業に向けた、水産物の調査を行い、特産品づくりの資料を得る。	
研修事業	水産業改良普及員一般研修 交 流 学 習 会	5 月 9 月	糸 満 市 平 良 市	普 及 員 青壮年部	専門技術員 漁協、市町村	専門技術員による行政一般及び専門事項についての研修 「資源管理型漁業の実践について」というテーマで、神奈川県横浜漁協専務、天田茂氏の講演及び交流会を実施する。	水産業改良普及員研修実施基準
	特 別 研 修	5 月	鹿 児 島	青壮年部	漁協、市町村	カツオを始め水産物加工先進地である鹿児島県枕崎市漁協に研修を実施し、宮古地区のカツオ漁業の今後の発展のための伊良部町漁協青年部を2名派遣する。	
指導事業	沿岸漁業改善資金運用 事業 少 年 水 産 教 室	4、3月 7 月	管内全域 宮古水産高校	漁 業 者 中 学 生	漁協、市町村 宮古水産高校	需要調査、申請等の検討、手続き指導 事業実施後の調査指導。 義務教育課程にある中学生を対象に水産に関する初歩的な知識、技術について学習させ、漁業についての理解を深める。	沿岸漁業改善資金助成事業 業 漁業後継者対策事業

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
	青年水産教室	5月	伊良部町	青壮年部	漁協、市町村	漁業後継者である漁協青壮年部を対象に、水産物の流通について知識を深めるため勉強会を開催する。 課題「水産物の流通について」 講師 大都魚類株式会社 副部長 竹内 賢 相	
	漁村青壮年婦人活動実績発表大会	1月	那覇市	青壮年婦人研究グループ	漁村、市町村 農改良普及所	漁村青壮年婦人の自己的な研究実績を発表させることにより、相互の知識の交流を図る。	漁業後継者対策事業
	沿岸漁業改善資金の活用並びに調査指導	4、3月	管内全域	漁業者	漁協、市町村	事業実施後の経営指導。	沿岸漁業改善資金助成法
	グループ指導	"	管内全域	青壮年グループ	"	漁協青壮年グループの育成指導。	
	巡回指導	4、3月	"	"	"	漁村を巡回し、相談、計画、調査等の事業を行い漁協青壮年グループの意向集約及び育成強化について指導する。	
	魚類繁殖指導					魚類の繁殖指導及び経営改善指導を行う。	
	イトモズクの繁殖指導	4、3月	宮古全域	漁業者	漁協、市町村 栽培センター	盤状体越冬保存の指導を継続実施する特に市栽培センター内の越冬保存施設の有効利用を促進するため、冷房保存を指導する。	
						育苗漁場の選定、育苗時の水温測定を指導する。	

事業区分	課	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者等	普及活動経過	翌年度への展開事項
		クビレヅタの養殖指導	4、3月	与那覇湾	久松漁業研究会	漁協、平良市	継続実施し、混生の解消を図る。 台風対策のため固定式の垂下養殖を指導する。 現在の養殖場内は水深が浅いため、水温変化が著しいので深場（水深3メートル）での養殖を実施検討する。	
		シャコガイの放流指導	6、10月	城辺町 吉野海岸 保良バナリ 八重干瀬	漁業者	漁協、市町村 市栽培センター	シャコガイの放流事業を継続実施する 昭和63年度に実施した直接埋込方法はベラ類の捕食が多いため中間育成を市栽培センターで実施する。 指導方法として、漁港工事で陸揚げされたハマサンゴで50cm ² ×50cm ² の人工基盤をつくりセンター内のタンクで中間育成後に放流する。	

平成元年度普及区域指導計画

都道府県名 沖縄県
改良普及員室名称 八重山支庁農林水産課
普及区域 八重山地区

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
企画事業	八重山地区漁村青少年協議会	6月～3月	八重山地区	漁村青少年	漁協青年部 漁協、市 学識経験者	・漁業後継者対策事業の検討、策定のための委員会開催。 ・研修講座等を実施して漁業士、指導漁業士の育成を図る。	漁業後継者対策事業 漁業士育成実施要領
	青年漁業士等育成指導事業	7月～1月	水産業改良普及所	漁業者	漁市	・水質調査を毎月2回実施する。 測定項目DO、PH、比重、濁度、水温 ・沈礁、浮魚礁の効果調査及び利用状況調査	漁業公営調査指導事業 沿岸漁場整備開発事業
	漁業公害調査 魚礁の効果調査（協力）	4月～3月	石垣市 （伊原間湾） 八重山地区	漁業者 漁業者	漁協、市 水試 漁協 市町 研究グループ	・昨年度放流した35,100個体（石垣市30,000個体、竹富町5,100個体）のヒメジャコノ成長測定及び生息状況の調査。	
調査事業	シヤッコ貝の放流効果調査	〃	名蔵湾 （赤崎地先） 前里地先 西表島 （白浜地先） 竹富島東沖	研究グループ	漁市 水試	・昭和62年度に放流した稚貝15,000個体、標識貝（黄色）450個体、昭	
	高瀬貝の放流効果調査	〃			漁協、市 水試		

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	者等	普及活動経過	翌年度への展開事項
							和63年度に放流した1,500個体のタカヤメの成長測定及び生息位置の調査。	
研修事業	水産業改良普及員一般研修	5月	水産業改良普及所 東京	普及員	専 門 技 術 員	技 術 員	。専門技術員による行政一般及び専門事項についての研修。	水産業改良普及員研修実施基準
	全国水産業改良普及職員行政研修	10月	東京	"	水 産 庁	庁	。平成元年度全国水産業改良普及職員行政研修に1名参加。	"
	学 習 会	9月	石 垣 市	漁 業 者 漁 協 青 年 部 研 究 グ ル ー プ	漁 市	協 同 市 町	。資源管理型漁業の実践について講師 神奈川県横浜浜市漁協 専務 天田茂氏	
	漁業技術研修会	11月～1月	石 垣 市	研究グループ	漁 協、市 漁 専 門 技 術 協 同 市 町	市 技 術 協 同 市 町	。ヒトエグサ養殖の雑草対策及び養殖管理について講習会を実施したい。	
試験事業	"	5月～10月	竹 富 町 (白浜) 与那国町 (久部良)	漁 業 者 漁 協 青 年 部 研 究 グ ル ー プ	漁 市	協 同 市 町	。曳網釣漁具漁法とマグロの鮮度保持について講習会を実施したい。	
	レンコカゴ試験事業	5月～9月	石 垣 島 沖	漁 業 者 漁 協 青 年 部 研 究 グ ル ー プ	漁 水 試	市 試	。昭和57～60年代に普及所、水試でレンコカゴによるキダイの試験操業を実施したが普及に至らなかったためキダイを漁獲対象から除き水深50メートル前後の瀬魚を対象にカゴを敷設し試験操業を実施する。	

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
指導事業	トビウオのかまぼこ加工試験	4月～6月	石垣市	漁業者 漁協婦人部 漁家婦人 漁業者 研究グループ	漁協、市 研究グループ 加工業者 農改普及所 漁市 協町試	画一化された原料（スケソウすり身）にかわり、地元で生産されるトビウオ、その他の雑魚を原料とした、かまぼこづくりを意欲的に実施する。	
	ジャコ貝の放流試験	5月～3月	名蔵湾 前里地先 白浜地先 竹富島東沖	研究グループ	漁市 水試	- ジャコ貝の稚貝を放流し、成長測定、活着率、生息状況等について調査する。50,000個 - タカセ貝の稚貝を放流し、移動性、成長測定、歩留り等について調査する。	水産業構造改善推進事業 (ソフト)
	少年水産教室	7月	水産業改良普及所	中学生	漁市	- なお、標識貝放流についても実施する。 - 漁村の子弟に水産業に関する知識、技術について学習させ、水産業についての理解を深める。	漁業後継者対策事業
	青年水産教室	5月	石垣市	漁業者 漁協青年部 研究グループ	漁市	水産物の流通について	"
漁村青年婦人活動実績発表大会	漁村青年婦人活動実績発表大会	1月	那覇市	漁協青年部 研究グループ 漁協婦人部	漁市 農改普及所 関係機関	講師 大都魚類大物部副部長 竹内賢相氏	"
						漁村青年婦人及び研究グループの自主的な研究実績を発表させることにより相互の知識の交流を図る。	"

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
	沿岸漁業改善資金の活用並びに調査指導	4月～3月	管内全域	漁業者	漁市	協	沿岸漁業改善資金助成法
	資源管理型漁業の推進	4月～3月	八重山地区	漁業青年協 部研究グループ	漁市 日裁 八重山事業場	協 町 協 町 協 町 協 町	資源管理型漁業を推進する第1歩として、ヒメジャコの移植放流を水産業構造改善推進事業（ソフト）で実施する
	栽培漁業の推進指導 （ガザミ、カンパチ、コブシメ、ハタ）	4月～3月	"	"	"	"	資源管理型漁業を推進する第1歩として、ヒメジャコの移植放流を水産業構造改善推進事業（ソフト）で実施する
	ヒトエグサ養殖指導	10月～3月	石垣市	研究グループ	漁専	市技	資源管理型漁業を推進する第1歩として、ヒメジャコの移植放流を水産業構造改善推進事業（ソフト）で実施する
	浮魚礁利用と漁具漁法及び鮮度保持の指導	5月～10月	竹富町（白浜） 与那国町（久部良）	漁業青年協 部研究グループ	漁市	協 町	資源管理型漁業を推進する第1歩として、ヒメジャコの移植放流を水産業構造改善推進事業（ソフト）で実施する
	水産物の加工指導 （カツオ、マグロ、トビウオ）	5月～11月	八重山地区	漁業青年協 部研究グループ	漁市	協 町	資源管理型漁業を推進する第1歩として、ヒメジャコの移植放流を水産業構造改善推進事業（ソフト）で実施する
				漁家婦人	農改普及所		資源管理型漁業を推進する第1歩として、ヒメジャコの移植放流を水産業構造改善推進事業（ソフト）で実施する

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力団体	普及活動経過	翌年度への展開事項
	魚類の蕃養指導	5月～3月	石垣市	漁業者 漁協青年 部研究グループ	漁協、 水試	を生かし、生活改善普及とタイアップして、味を漬け、しょう油漬け等の加工方法並びにトビウオによるかまぼこすり身の加工技術方法を指導する。 。小型定置網等でとれた小魚（アイゴ）その他の魚種）を蕃養指導を実施することにより、付加価値を高め、漁家の経営改善を図る。 。漁村青少年グループ育成指導	
	グループ指導 巡回指導	4月～3月 "	管内全域 "	青少年グループ 漁業者 青少年グループ	漁市 "	。漁村を巡回し、巡回相談、試験調査等の事業を行ない漁村青少年グループの意向集約及び育成指導強化について行なう。	

地域活動計画のたて方

(基本的な考え方と手順)

I 目 的

普及事業の役割は、大きく分けて、次の3つの柱からなりたっている。(1)漁業技術に関すること。(2)漁業経営に関すること。(3)担い手育成に関する幅広いものであり、これらの課題を推進し解決するには、漁家の持つ緊急性、共通性、解決された場合の波及効果を考慮し、重点的に指導する地域や集団を選び漁業者が『自分で考え、決定し、実行』できるような計画を作成する目的で実施する。

尚、課題設定に当っては、地区検討委員会を設置し、同委員会を中心に研究討議を行い決定する。具体的な普及計画の内容については、Ⅱ～Ⅵの基本的な考え方と手順により作成する。

Ⅱ 実態を把握するために

- | | | |
|---------------------------|---|------------------------|
| 情
報
収
集 | { | 1. 基礎資料の収集と整理 |
| | | 1) 漁業組合の実態 |
| | | 2) 漁業者の意向 |
| | | 3) 経営の実態 |
| | | 2. 普及指導対象集団 |
| | | 1) 漁協青壮年部の活動状況 |
| | | 2) 漁協婦人部の活動状況 |
| | | 3) 生産グループ(研究グループ)の活動状況 |
| | | 4) その他の集団 |
| | | 3. 作成手順 |
| 1) 地域の概要 | | |
| 2) 漁業の概要 | | |
| (1) 漁業の現状 | | |
| (2) 漁業担い手の現状 | | |
| (指導対象集団の組織の状況) | | |
| 3) 課題設定の理由 | | |
| (1) 重点指導地域 | | |
| (2) 指導集団 | | |
| (3) 担い手育成指導 | | |
| 4) 課題別指導計画 | | |
| { 3. 1)、2)、3) について様式化する } | | |

Ⅲ 地区検討委員会の設置

1. 検討委員は市町村、漁協役員及び青壮年部婦人部、生産グループ代表の5名～10名以内で構成する。
2. 検討委員会で地域の漁業実態を考慮に入れ、重点指導地域と重点指導集団及び担い手育成集団を選定する。

1) 重点指導地域の課題の設定

- (1) 地域として漁協として、取り組みを強化しなければならない課題について列挙する。
- (2) 課題は、生産技術のみにとらわれることなく、「例」えば、観光漁業的な取り組みから遊漁対策等、また現在北部地区で取り組み始めているトビウオ加工の技術導入と流通といったような漁協事業的な課題も地域全体計画として取り入れる。
- (3) 課題が決定したら実施方法、時期、期間（3年～5年）等をきめ、計画書を作成する。
〔Ⅱ－3）の手順により作成〕
- (4) 検討委員会は、計画の推進状況を把握するために、必要に応じて、開催し意見を求める。

2) 重点指導集団の課題の設定

- (1) 地域の重点集団（青壮年部、婦人部、研究グループ）等のかかえている問題を列挙し、その中から特に必要と認めた事項について検討し課題として設定する。
- (2) 青壮年部を中心とした重点集団の課題については、現在進めている移動相談の部会、班、組織との関連性をもたす意味からできるだけ「生産活動」と結びつけた形の課題の設定がのぞまれる。
- (3) 課題決定後はⅢ－1）と同様、検討委員会の意見を十分考慮に入れ作成する。
- (4) 計画書等についてはⅢ－1）と同様、様式化する。

3) 担い手育成の課題の設定

- (1) 青壮年部等の組織の強化に関すること。
 - ① 青年部から青壮年部への組織の再編
 - ② 活動計画、総会等の指導助言
 - ③ 生産活動と関連性を持たせた、実践活動への誘導
- (2) 青壮年部活動やリーダー育成に関すること
 - ① 部員相互の和づくりを目的とした活動（スポーツ、地域の各行事への参加）
 - ② 県が開催する交流学習会（リーダー研修）への積極的な参加を図るとともに、青壮年部間の交流会の実施。
 - ③ 漁青連との連携を密にし、同連が開催するリーダー研修会等への参加。

IV 計画策定に当たっての地域選定について

1. 選定に際しては、将来モデル的な漁協として推薦できる下記の条件をみたした漁協を選定する。
 - 1) 青壮年部、婦人部、研究グループ等の組織化が図られている漁協。
 - 2) 営漁計画等策定を終えた漁協。
 - 3) これまで、青壮年部、婦人部活動実績発表大会での発表回数等を勘案して、将来モデルになり得る漁協。
 - 4) 漁業形態のバランスがとれていること。
2. 地域数については昭和64年度の1年間は、担当地区（本島、東地区、西地区、宮古、八重山）で1地域、1漁協でスタートし、増数については、計画の進行状況勘案の上検討する。
 - 1) 地域活動計画は、担当地区で1地域1漁協とし、計画作成は、①重点指導地域計画、②重点指導集団計画、③担い手育成指導計画の3本柱とする。
 - 2) 計画書作成に当たっては、すべて様式化する。

V 一般指導事業

1. 地域活動計画（新規）以外の業務については、一般指導事業として取り扱う。（従来通り）
 - 1) 後継者育成事業
 - 2) 営漁指導事業
 - 3) 改善資金運営指導事業
 - 4) 公害調査指導事業
 - 5) 調査、試験事業

VI 地域活動計画実施に当たっての役割分担

1. 実施地域
 - 1) 本島地区は、1地区、1地域とする。
 - 2) 宮古、八重山地区も同様とする。
2. 計画作成に当たっての担当者の配置
 - 1) 専技室 1名
 - 2) 普及室 1名
3. 各担当者の役割分担
 - 1) 主担当者（VI-2に配置された者をいう）

地域活動計画推進に当たって、主担当者は、①地域選定、②地域検討委員会の設置並びに、活動計画案Ⅲ-2、1）、2）、3）に係る課題の選定作業を行う。
 - 2) 各担当普及員

課題選定後は、同内容を検討し活動計画案Ⅲ-2、1）、2）、3）の各課題ごとに担当

普及員を配置する。

4. 課題別指導計画書の作成

1) 担当者（各担当普及員）は、活動計画書のⅡ-3、4）に係る指導計画書を作成する。

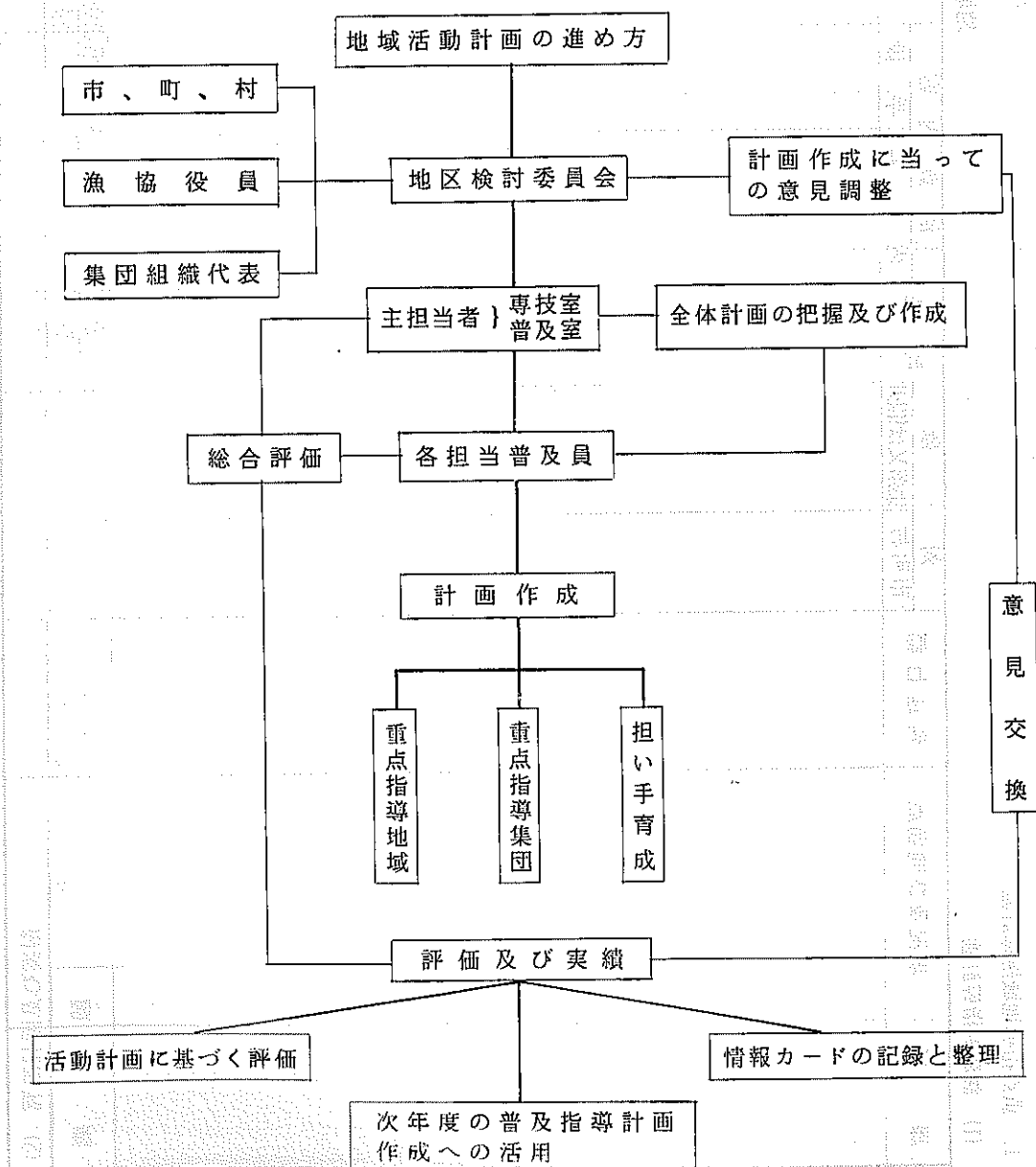
2) 主担当者は、計画全体の把握を行うとともに、特に活動計画書のⅡ-3、1）、2）、3）に係る地域の現状及び概要等について作成する。

3) 担当者は、年度毎に評価計画及び実績について報告する。

5. 評価計画の総合評価については、普及所長及び主担当者がそれに当るものとする。

6. 本計画は平成元年4月1日より実施する。

（企画文責：専技室）



(1) 課題別指導計画

—

- 172 -

(2) 評価計画及び実績

[illegible]

(1) 課題別指導計画

—

[illegible]

(1) 課題別指導計画

—

[illegible]